

KYOUSEI DAYORI

- きょうせいだより -
No.41 R8.2

矯正を知ろう！再犯防止をもっと身近に！

- CONTENTS -

- ・九州ブロック再犯防止シンポジウム開催！
- ・インタビュー
法務省九州矯正管区
少年矯正調整官
- ・あなたの街の矯正施設②
鹿児島少年鑑別所



きょうせいだよりってなに？

本誌は、地方公共団体や民間団体の皆さまに、法務省の再犯防止の取組や矯正施設のことなどを知ってもらいたいという思いを込めて配信するお便りです。日々の業務の合間に手に取ってご覧いただき、私たち矯正のことを少しでも身近な存在として感じていただけますと幸いです。

※矯正施設…犯罪や非行をした人に自らの罪を反省させるとともに、円滑に社会復帰できるよう内省を深めさせたり、訓練を行ったりする施設の総称。刑務所、少年刑務所、拘置所、少年院、少年鑑別所がある。

2026
2.17

令和7年度九州ブロック 再犯防止シンポジウム開催！



基調講演

2月17日、西南学院大学チャペルにおいて、九州ブロック再犯防止シンポジウムを開催いたしました。会場とオンラインでの視聴を合わせると約450名の方々にご参加いただくことができ、盛会のうちに終わることができました。今号では、本シンポジウムを特集します！

シンポジウム当日まで……

今年度の本シンポジウムは、大学生とともに作り上げるシンポジウムにしようと、会場である西南学院大学法学部の福永教授の協力の下、昨年10月の福永教授ゼミ生との顔合わせを皮切りに、シンポジウム当日まで福岡刑務所での対話型施設参観やオンラインでの打合せも行い、準備を進めてきました。登壇者の発表内容をゼミ生みんなまで考え、登壇しない学生も、当日は司会や会場案内、壇上のレイアウト変更など役割を持ち、シンポジウムに臨みました。





基調講演

一般社団法人ヒューマンハーバーそんとく塾
塾長 原田 公裕 氏

一般社団法人ヒューマンハーバーそんとく塾の原田公裕氏による基調講演では、「心のスポンジづくり」プログラムができるまでの経緯や内容、効果などが語られ、これまでの経験に即した説得力のある話がされました。

後半のトークセッションでは、刑務所に入っていた方（以下「当事者」という。）と刑務官とのざっくばらんな話や、出所者を雇用している立場からの話、当事者の方からの支えてくれる人がいることの有り難さ、学生が学びを通して再犯防止について考えたこと、地域で支える側の取組やその課題などが語られました。

最後の質疑応答では、地域で活動されている方からの質問に対して、立ち直りの当事者の立場から、当事者だからこそ分かる視点でのアドバイスがなされていました。



トークセッションⅡ
「学生の視点から考える拘禁刑」
西南学院大学法学部 教授×学生





てらち やすひろ
寺地 泰裕さん
 -法務省 九州矯正管区
 少年矯正調整官-

令和5年度から九州矯正管区に新設された「少年矯正調整官」。今回は、現場から一步引いた視点で、幅広くディープな業務を担っている「少年矯正調整官」というポストを、新設当時から現在までの3年間務められている寺地泰裕氏（以下「寺地調整官」という。）にお話を伺いました。

少年矯正調整官の業務

業務

野口（当課課長）…まずは簡単に自己紹介をお願いします。

寺地…私は大学で心理学を専攻していたことや、児童相談所で非常勤職員として勤務していたことがきっかけで、非行少年に何かできることはないかと考えるようになり、少年院等で勤務する法務教官になろうと決意し、平成20年に佐世保学園（令和5年に閉庁した少年院）に採用されました。その後、昇任試験に合格して宮崎刑務所に異動となり、教育専門官として受刑者に改善指導という教育を実施していました。その後、総務系の

仕事を経験し、令和5年度からは現ポストである九州矯正管区の少年矯正調整官として勤務しています。

野口…少年矯正調整官はどんな業務を行っているんですか。

寺地…現在、私の担当業務は、①少年院に入っている少年で、家族の引受けが難しい少年、精神疾患や医療上の措置が必要な少年など、出院した後の生活環境を特に整える必要があると思料される場合に、九州地方更生保護委員会[※]と調整を図る、②大学生等を対象とした少年院・少年鑑別所の体験プログラム（旧インターシップ制度）の窓口、③刑事施設と少年院の職員が交流する研修の企画、そして、④被害者等の心情等の聴取・伝達制度に係る業務全般などです。

被害者等の心情等の聴取・伝達制度

野口…被害者等の心情等の聴取・伝達制度とはどのような制度ですか。

※地方更生保護委員会
 主として仮釈放、仮退院の事務を行っている。

寺地…簡単に説明すると、この制度は令和5年12月から運用が始まった制度で、犯罪被害者や遺族の方が述べられた心情等を矯正職員が聴取し、希望に応じて加害者（受刑者・在院者）に伝えるものです。被害者等の生の声を聞いた加害者の中には、被害の実情を直視し、反省を深める者もいます。しかし、被害者の声を聞いた加害者の反応次第では、被害者をさらに傷つけてしまう場合もあります。聴取を実施した担当職員の精神的負担に対するケアの方策を実施することも必要です。被害者等の声を正確に伝えることができるよう、また、二次被害を防ぐことができるよう、矯正では、担当職員



育成研修を実施しています。

本制度の運用を通じて感じたことですが、我々矯正職員は、これまで本当に被害者の方々の話を聞く機会がなかったと思います。被害者の実情を知ること、受刑者や在院者の処遇に反映し、自らの行為が他者にどれほどの痛みを与えたか、事件後の生活にどれほどの影響を与え続けるのかを実感して初めて「本当の反省」が芽生えることもあると思います。この制度が受刑者や在院者たちの反省を深めるきっかけとなってくればと切に願います。

少年矯正の現状と課題

野口…少年たちの非行の背景にはどんなことがありますか。

寺地…私が採用された当時は、暴走族やカラーギャングなどの集団犯罪が流行っていました。現在は、SNSを介してつながった者同士で、場当たりの非行を行っているケースが多くなっているように感じます。少年一人ひとり状況は違いますが、家に居場所がない、ヤングケアラーなどの多様な問題を抱えた少年が多いです。

野口…そのような少年たちに、法務

教官としてどのように向き合っていますか。

寺地…私が少年院で勤務していた頃、4、5か月で出院していく短期の少年院だったというのもあって、とにかく厳しく指導することを念頭に置いていました。でも、ある時、先輩職員から、もっと少年の目線に立って指導するよう助言を受けたんです。それからは、少年たちの可能性を信じて、「少年をひとりの人として尊重する姿勢」を忘れず、本人の気持ちに寄り添うことを心掛けるようにしてきました。

野口…そうやって関わった少年たちが戻っていく地域社会と、少年院などの矯正施設がつながっていくため



本人の気持ちに寄り添うことを心掛けてきました。

に、今後どんなことが必要だと考えますか。

寺地…まずは、地域の方々に矯正施設の役割や取組などについて知ってもらいたいと思っています。誤解や偏見があると、少年が地域で再出発するときのハードルが高くなってしまふからです。そのためには、施設参観を実施して少年院の実情や教育内容を知ってもらうことが重要だと考えます。また、出院者などを支援してくださる方々など、出院後の受け皿・環境をもっと拡充させていくことも大切です。そのためには、情報発信を積極的に行っていかなければならないと思っています。



質問やご意見、取り上げてほしい事項などありましたら、当課までお気軽にご連絡ください。

お問合せ先

九州矯正管区 更生支援企画課 福岡市東区若宮5丁目3番53号

TEL:092-661-1143 (直通) FAX:092-663-1001

MAIL: i.kyuushuukyouse.ga0@i.moj.go.jp



鹿児島少年鑑別所



所在地：鹿児島県鹿児島市



POINT

桜島を望む 少年鑑別所



鹿児島少年鑑別所は、昭和24年1月に、鹿児島市永吉の旧鹿児島刑務所に開設され、昭和26年に現在地に庁舎を移し、昭和50年の全面改築を経て現在に至っています。市街地を見下ろすほどの高台に位置するため、寮内から世界有数の活火山である桜島を一望することができ、煙を上げる雄大な姿を貼り絵で表現しようとする子どもが多くいます。当所の持ち味の一つは、先人が熱意をもって取り組んできたオリジナリティ溢れる処遇であり、過去には毎朝運動場から桜島に向かって子どもたちが歌を歌っていた時期もあるようです。

桜島の貼り絵



健全育成のための 支援の充実化

処遇の充実化を積極的に推進する職員の姿勢は現在も引き継がれています。令和7年度には、外部協力者と協働する支援として、音楽指導（アコースティックギター体験）や保護犬・猫と触れ合うアニマルアシステッドセラピー、立ち直りを果たした当所の元在所者による講話を新たにスタートさせました。



「非行をする・しないとどまらず、これからの社会生活を前向きに心豊かに送ってもらえるよう、趣味を持つ楽しさや、命の温かさを実感する気持ち、先々への明るい見通しなどを見つけていくことができる機会を提供しています。」

VOICE

現場職員の声 — 法務教官



少年のギターに合わせ、職員が歌う、そんな経験のある矯正職員って少ないんじゃないでしょうか。この経験を含め当所での健全育成の支援についてお話しします。

冒頭のエピソードは鹿児島島のシンガーソングライターによる音楽指導の一場面です。苦戦しながらも楽しそうにギターを弾く姿は普段の在所者とはまた違う一面です。プ口の方に上達を褒められるって、なかなかできないし心に残る経験ですよね。

また、アニマルセラピーでは動物好きの在所者は本当に楽しそうに、そして動物を慈しむ表情や触れ合い方を見せてくれます。「なんだ、君にもこんなに素直な気持ちがあるじゃないか。」と職員では引き出せない感情を、動物たちはものの数分で引き出してしまっているので彼らには敵いません。唯一の難点は、職員も動物と触れ合いたくて、そわそわしながら「待て」をしないといけないところでしょうか。

そして元在所者の方の講話、これは職員が話すことのできないこれまでの経験や将来の展望を示すとても大きな力です。当所の強みになると思います。

外部講師のご協力による本支援は、職員にないスキルや経験を在所者に伝える素敵なシステムで、健全な成長を地域社会と共に支えています。

